



市民病院

ハナちゃん通信

問 市民病院管理課
☎(48)5050

歯科衛生士

～お口のケアであなたの健康を
サポートします！～

虫歯や歯周病は、歯が抜けたり口臭の原因になるだけだと思っていませんか。歯周病の原因は、お口のなかにいる細菌です。この細菌は通常体内に入っても体内の免疫力によって疾患を発症することはありませんが、免疫力が低下した時に合併症や感染症を引き起こすことがあります。

歯科衛生士は、手術を控えている人や、高齢の人、介護が必要な人、病気で入院している人、糖尿病の人、がんの放射線治療・化学療法を受ける人などに専門的口腔ケアを提供しています。お口のケアをすることで、お口の健康だけでなく、今の身体状態をよりよくするサポートをしています。

お口の中を清潔にするメリットは…

- 1 手術後の合併症（肺炎など）を予防し早期退院
- 2 誤えん性肺炎などの感染症の予防
- 3 糖尿病・動脈硬化などの全身疾患の予防
- 4 お口の機能の維持
- 5 食欲促進、意欲向上
- 6 コミュニケーション機能の回復

当院の口腔ケアセンターには歯科衛生士が5人おり、口腔衛生指導、患者さんに合わせた清掃道具、磨き方の提案をしています。外来受診時や入院中でお口のケアなどでお困りのことがあれば気軽に相談ください。



碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内市史
資料調査室
☎(41)4566

No.69 矢作新川の開さく(1)

碧南の発展に大きく寄与した大浜湊、鷺塚湊ですが、その背景には矢作川の水運を利用できたことが挙げられます。その矢作川は、もともと現在よりも東側を南方向へ流れ、三河湾に抜けていました。それが、ある工事をきっかけに碧南方面に流れることになり、現在に至っています。今回は碧南の発展につながったとも言えるその大工事を紹介します。

1604年、碧南市域の大浜村、棚尾村、鷺塚村、西端村など海辺の村の姿を後々激変させる大工事が始まりました。古文書では「矢作川通り堀明け」などと表現されていますが、八ツ面山（西尾市）の東を南方向（三河湾）へ流れていた矢作川を碧南方向へ付け替えたのです。これは幕府直轄事業といって、幕府が決め、幕府が実施した工事でした。

『徳川実紀』という歴史書には次のように書かれています。「慶長十年七月二十三日、三河国碧海郡米津村の地をうがち、矢作川の下流を通ぜしめらる。本国所領の輩百石に二人、農民は百石に一人を課せ

しめらる。これ大御所の仰せによりてなり。」

この文からは、工事が終わって碧南方面へ流れ始めたのは1605年7月23日であったことや工事には、三河の領主（武士）は100石につき2人、農民は100石につき1人が割り振られたこともわかります。また「大御所の仰せ」とあり、徳川家康の命令であったことも分かります。

開さく場所となったのは碧海郡藤井村と米津村でした。このふたつの村は、矢作新川によって二分されました。このため現在も米津小学校区の一部は西尾側（矢作川左岸）にあります。藤井村も村が二分されました。村のほとんどは安城側（矢作川右岸）に残り、西尾側（矢作川左岸）となった部分はわずかでした。

家康は1590年、秀吉から関東へ国替えを命じられると、すぐに関東平野の河川工事に着手しています。この50年後には江戸湾に流れていた利根川は太平洋へと流れを変えています。「利根川東遷」と呼ばれますが、矢作川開さくと似ています。